



オーロラの「音」を研究する京大生

藤田 菜穂さん(20)



夜空の神秘に耳をすませば

夜空に輝くオーロラの発生と同時に音が聞こえるらしい。でも録音に成功した例はほとんどない。そんな謎を同級生3人と解き明かそうとしている。

1年前、同じ京大理学部の大羽将也さん(21)と高富士愛子さん(21)が同時期に「オーロラを見に行きたい」とツイート。すぐ藤田さんが「いいね」。とんとん拍子で渡航が決まった。

「どうせ行くなら」と宇宙物理学の教授に話を聞き、「オーロラの音」の不思議に魅せられた。オーロラから出

横浜市出身。都内の高校では同級生の多くが東大を目指したが、「ゆっくりにじっくり考える入試問題や大学の雰囲気は自分に合う」と京大に入った。

る電磁波が脳に直接届き、音と錯覚するのでは？ そんな仮説を立てた。この説に結びつく考えを偶然温めていた司悠真さん(21)も合流。リーダーになった藤田さんを中心に、論文を読みあさって研究計画を練り、学内の海外渡航支援制度で30万円を獲得。実験器具を買いそろえた。

昨年9月、アラスカで3週間、オーロラを観測。1回だけオーロラの音らしきものが録音された。国内外の研究者と議論し、今春、ユニークな試みを後押しする学内企画に選ばれて研究費50万円を得て、検証を進めている。

研究を通して感じたのは「授業の実験がいかにお膳立てされたものか」ということ。「答えがない実験に取り組むのは楽しさが全然違う」と目を輝かせる。

文・写真 合田 裕
◆次回は7月14日に掲載予定です。

記者から

「原理を知りたい」という強い意欲に圧倒された。大学院で宇宙物理を研究したいという。